

ARCHIV  
FÜR  
JAPANISCHE CHIRURGIE

VI BAND 1929

昭和四年

日本外科寶函

第六卷

INOKO-ITO-VEREIN

KYOTO

# 日本外科寶函第六卷

## 原著總目次

上行性腎臟傳染ニ關スル實驗的研究

下村一郎(一)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第一報、抗原量〇・五珽及ビ一〇珽ノ影響

富田正來(三九)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第二報、抗原量二〇珽及ビ三〇珽ノ影響

富田正來(五)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第三報、抗原量四〇珽及ビ五〇珽ノ影響及ビ全篇ノ總括

富田正來(七一)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第一報、抗淋菌「オプソニン」產生ノ阻害

平田卓二(九三)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第二報、抗淋菌増容素產生ノ阻害

平田卓二(一二九)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫  
阻止物質ノ立證

第三報、抗淋菌凝集素產生ノ阻害

平田卓二(一二九)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第四報、傳研製腸窒扶斯菌「ワクチン」ヲ以テノ特殊凝集素產生ノ阻害

平田卓二(一五七)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第五報、傳研製腸窒扶斯菌「ワクチン」ヲ以テノ抗腸窒扶斯菌「オプソニン」產生ノ阻害

平田卓二(一五九)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第一報、雙球菌性膿ヲ以テノ検査成績 廣瀨研之(二七)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第二報、連鎖狀球菌及ビ雙球菌性膿ヲ以テノ検査成績

廣瀨研之(二九)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第三報、黃色葡萄狀球菌性膿ヲ以テノ検査成績 廣瀨研之(三五)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新ナル認識

第四報、結核菌性膿ヲ以テノ検査成績

實驗的細菌性動物膿胸膿ハ「イムペチン」ヲ含有スルヤ

實驗的非細菌性動物膿胸膿ハ「インペチン」ヲ含有スルヤ

(非細菌性膿ト細菌性膿トノ生物學的差別)

排膿後死腔ヲ遺殘セル儘ニテ治療セシメタル各種膿胸。附、膿胸ノ新治療方針

日本人ノ足蹠深在動脈後脛骨動脈下端及ビ内・外足蹠動脈ノ神經ニ對スル位置

細菌類脂體ノ免疫學的意義

第一報、黃色葡萄球菌ノ脫脂菌及ビ正常菌ヲ以テノ抗體(凝集素「オプソニン」)產生ノ研究

細菌類脂體ノ免疫學的意義

第二報、肺炎双球菌ノ脫脂菌並ニ正常菌ヲ以テノ凝集素及ビ「オプソニン」產生ノ研究

大網膜癒着ニ關スル實驗的研究

日本人骨盤内臟器ノ局所解剖學的研究(承前)

副腎皮質ノ機能ニ關スル研究(第一回報告)

廣瀨 研 之(三五)

廣瀨 研 之(三七)

廣瀨 研 之(四〇)

廣瀨 研 之(四八)

喜 多 豪(四七)

喜 多 豪(四九)

富田 正 來(四九七)

富田 正 來(五三)

富田 正 來(五四)

下村 一 郎(五四)

千 葉 忠 恕(五六)

近藤 藤 平(六四)

腸「チフス」菌體ノ注射ニ依ル特殊凝集素產生ニ及ボス葡萄球菌生・煮濾液ノ影響ニ就テ

膝蓋腱反射ハ眞ノ反射ナリヤ

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第一回報告、大網皮質ニ於ケル腱反射抑制作用存在ノ疑義

副腎皮質ノ機能ニ關スル研究(第二回報告)

腦髓ノ循環血量並ニ酸素需要量ニ就テ

腦髓ノ循環血量並ニ酸素需要量ニ及ボス藥物ノ影響ニ就テ

煮沸免疫元トシテハ上澄液ト濾過液ト何レガ優秀ナリヤ。附、腸室扶斯菌煮沸免疫元最小粒子ノ大サ

腸室扶斯菌煮沸免疫元粒子ノ大サニ就テ

肘關節外傷ニ關スル研究

其一、本邦人肘關節ノ「レントゲン」解剖學ト其ノ臨床的意義

西 郷 一 惠(九五)

澤 田 文 治(六九)

淺 海 吾 市(七三)

淺 海 吾 市(七三)

近 藤 藤 平(八〇)

吉 益 爲 則(八三)

吉 益 爲 則(八五)

猪 木 隆 三(八七)

猪 木 隆 三(九〇)

猪 木 隆 三(九〇)

細菌性抗原ニ對スル「レントゲン」線ノ作用ニ就テ

宇野俊治(九七)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第二回報告、腦脊髓系統ノ種々ナル部位ニ於ケル切斷ガ腱反射ニ及ボス影響ニ就テ

淺海吾市(九二)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第三回報告、小腦破壞ニ因ル腱反射ノ變化ニ就テ

淺海吾市(九八)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第四回報告、前庭迷路破壞ニ由ル腱反射ノ變化ニ就テ

淺海吾市(一〇三)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第五回報告、腹部交換神經節狀索ト腱反射トノ關係ニ就テ

淺海吾市(一〇〇)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第六回報告、予等ノ全實驗成績ヲ基礎トセル諸種疾患ニ於ケル腱反射ノ臨床的批判

淺海吾市(一〇四)

骨折治癒時ニ於ケル生化學的研究(第一回報告)

骨折治癒時ニ於ケル血清並ニ假骨内「カルシウム」及「磷含有量」ノ消長並ニ其ノ相互關係ニ就テ

大野一信(一一二)

抗黃色葡萄狀球菌「トロピン」作用ニ及ボス微生物

生・煮兩濾液ノ影響(第一報)

青柳安誠(一二七)

同名水溶性抗原ヲ以テノ實驗

副腎皮質ノ機能ニ關スル實驗的研究(第三回報告)

近藤藤平(一二七)

副腎皮質ノ機能ニ關スル實驗的研究(第四回報告)

近藤藤平(一二九)

容量のマイニツケ氏微毒濁濁反應(M.T.R.)ノ結合型式。附、倍數法則ノ意義

玉置辨吉(一三六)

橫隔膜神經燃除ノ肺循環ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究

小山田豊(一三七)

橫隔膜神經燃除ノ呼吸性瓦斯交換ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究

小山田豊(一三五)

家鶏粘液肉腫ノ生物學的特殊性ニ就テ

松本彰(一三七)

日本人骨盤内臟器ノ局所解剖學的研究(承前)

千葉忠恕(一三三)

抗元(沈澱元)ハ如何ナル程度ニ陶土濾過器ニヨリテ阻止セラルルヤ

玉置辨吉(一四二)

抗黃色葡萄狀球菌「トロピン」作用ニ及ボス微生物

青柳安誠(一四五)

生・煮兩濾液ノ影響(第二報)

青柳安誠(一四五)

抗黃色葡萄狀球菌「トロピン」作用ニ及ボス微生物

青柳安誠(一四七)

生・煮兩濾液ノ影響(第三報)

青柳安誠(一四七)

非細菌性蛋白體抗原ヲ以テノ實驗

臨牀總目次

人體胃腸管内ノ毛塊ニ就テ 原 守 藏(一九五)  
結核性膿胸ニ對スル肋膜外胸廓成形術ニ就テ

骨膿瘍(臨牀講義) 原 守 藏(一九五)  
出血性腎炎(臨牀講義) 水田 集 藏(三二六)  
若年者ノ胃癌ニ就テ 鳥 瀉 隆 三(三三九)

化骨不全症ニ就テ 磯 部 喜右衛門(三四)  
濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其一) 盛 彌 壽 男(五七七)  
三好 清 纓(五九五)

橫隔膜下膿瘍ニ就テ 村 上 德 治(六二二)  
悪性腫瘍ノ臍ニ於ケル發生 牛 田 秀 治(七三二)  
胃癌ト誤診セラレタル結核症ニ就テ 濱 谷 軍 治(七四二)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其二) 神 部 信 雄(七四九)  
村 上 德 治(七六六)

陰囊水腫。附、壓迫示界法(臨牀講義)鳥 瀉 隆 三(七五五)  
尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ

前編、健康體ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一〇五六)

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ  
後編、諸種疾患ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一〇九四)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其三)

村 上 德 治(一〇八四)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其四)

村 上 德 治(一一五二)

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ  
(承前)

前編、健康體ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一二六〇)

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ  
(承前)

後編、諸種疾患ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一二七六)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其五)

村 上 德 治(一五四五)

骨膿瘍手術後ノ死腔ノ一新治療法ニ就テ

由 茅 二 五 四(一五五五)

## 雜錄總目次

- 第二十七回近畿外科集談會漫語 (二六四)  
外科雜誌抄讀會 (二六八)  
歐米視察談 (六三六)  
第三十回日本外科學會獻評 (七九五)  
外科雜誌抄讀會 (八〇〇)  
第二十八回近畿外科集談會日程 (八〇一)  
鳥瀉教授御渡歐 (八〇二)  
哭先師伊藤隼三博士 (八〇三)  
故伊藤先生ノ思出テ話 (一一〇八)  
外科雜誌抄讀會 (一一〇九)  
第八回國際外科學會參列記事(第一回報告) (一二四七)  
故伊藤先生ノ思出テ話 (一二四九)  
第八回國際外科學會參列記事(第二回報告) (一五八三)  
鳥瀉教授御通信 (一五九七)  
第二十九回近畿外科集談會演題 (一五九七)

